

学習ノート「徹兒哀辭」2

令和4年12月3日（担当 斎藤 高木 武田俊 武田左）

原文 2

既而汝亦病矣、予時亦見_二其臥_一病牀也、每早痛掃_二牀蓐_一、
藥碗菓盤器用位置必肅然、予因又窺_二其性稍好_一整、夫即有_二友愛之情_一矣、
則於_レ父、於_レ君、於_二朋友親戚_一、亦必不_レ薄矣、夫既在_二病不_二苟亂_一矣、
則其於_二平生_一、亦或不_レ苟矣、則汝庶_二幾乎其有_二根基_一矣、

読み

既にして汝も亦病なり、予時に亦た病牀^{びようしやう}に臥するを見るなり、毎早痛く牀蓐^{まいそう}を掃く
藥碗、菓盤、器用の位置必ず肅然として、予因^よつて又其の性稍^{やや}や整を好むを窺う、
夫れ即ち友愛之情あるなり
則ち父に、君に、朋友親戚に、必ず薄からずなり、夫れ既に病い在れども苟^{いやく}も亂れずかな、
則ち其れ平生に於いて、亦た或いは苟^{いやく}もせずかな、則ち汝その根基に有るを庶幾す。

訳文

しばらくして、おまえも又病気になった。私は時々病床にふせっているのを見た。毎朝丁寧に寢床の回りを掃き清めていた。薬の碗、果物の盆の器具の位置は必ずきちんと整っていた。私は、そのことによつて、またおまえはきちんと整っていることが好きなたちだと窺い知った。それは既に友愛の気持ちをもっているということだ。
すなわち、父に、幼い弟たちに、友だちや親戚に対する友愛の気持ちは薄いものではなかった。病にあつても乱れることはなかった。
それは常日頃から、いい加減ではなかったのだ。おまえは、そのように心のよりどころとなるものを願っていた。

語句

既而_二すでニシテ_一、その後まもなく

矣_二「なり」と読み、「〜だぞ」「〜にちがいない」「〜になつてしまった」。

断定・意志、推量・仮定、完了（過去・現在・未来）などの意。▽文末・句末におかれて、訓読しないこともある。（『漢字源』より）

病牀_二ビヨウショウ_一、病の床

蓐_二ジヨク_一 しとね ふとん

不_レ苟_二いやしくもせず_一 いい加減にしない

根基_二おおもと_一 根本

庶_二幾_二シヨウキ_一 こいねがう 希望する